配管用温度発信器　FT−TEX

FT−TEX

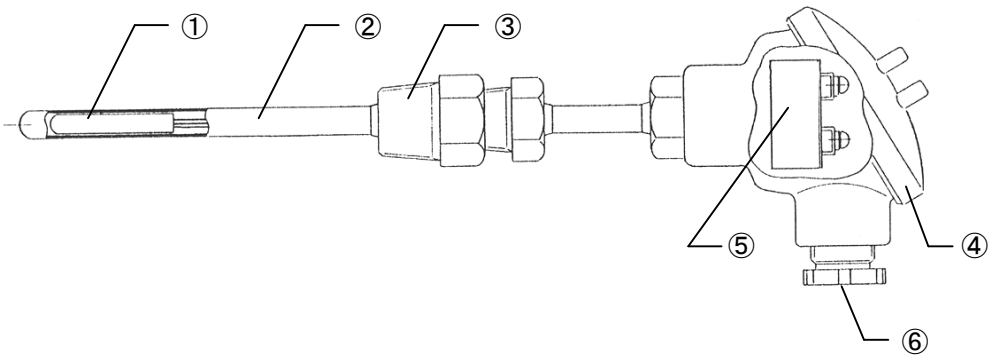
用途

配管挿入型温度発信器 FT−TEX は、温度検出部にはセラミック封入形白金測温抵抗体素子を使用し、電子回路部により検出温度に相当した電流信号を出力する一体型の温度発信器です。

型番一覧

本体型番
FT−TEX

発信器の構成



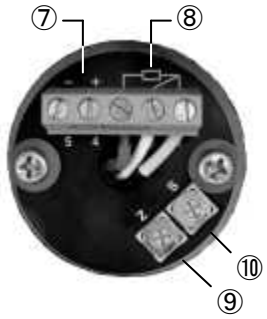
① ： 検出端シース部分（保護管内）
② ： 外保護管
③ ： 配管接続ねじ（PT3/4）
④ ： 端子BOX
⑤ ： 発信器本体（端子BOX内）
⑥ ： ケーブル･コネクタ部分（PF1/2）

保護管 ② 内部の検出端シース ① 内に測温抵抗体素子が封入されています。素子は、3本のリード線で端子BOX ④ 内部の発信器本体の電子回路により検出温度は、電流信号に変換され配線接続端子 ⑦ に出力されます。

アーチバック株式会社

発信器端子 BOX 内回路基板

⑦　：配線接続端子（4:+）(5:−)
⑧　：測温体リード端子（3:A）(4:B）(5:B）
⑨　：ゼロ調整トリマ（Z）
⑩　：スパン調整トリマ（S）



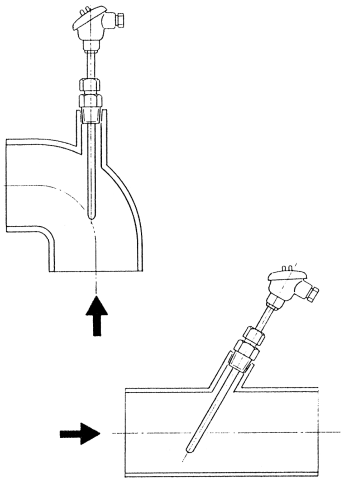
発信器の配管への取付

温度発信器を配管に取付ける場合には、発信器の保護管の配管接続ねじは（PT 3/4）ですので取付部分の配管に20A（3/4）のソケットを取付けてください。

発信器の配管上の取付位置は、右の図を参照してください。
[矢印は流体の流れ方向を示します。]

発信器の感温部全体が被測定流体中に入るように注意してください。

発信器の保護管の配管への取付は、シール・テープ等を使用してください。



ﾒﾝﾃﾅﾝｽ 及び 校正

発信器の精度を保つためには、定期的なメンテナンスが必要です。定期的なメンテナンスとしては、実際の水温と発信器よりの出力信号の比較チェックによる確認等がありますが、実際の正確な水温が判断できない場合などには発信器に基準抵抗等を接続し出力信号を確認することもできます。
発信器に基準抵抗を接続する場合には、発信器の測温体のリードを端子より外し基準抵抗を接続します。端子より外した測温体のリードを測定することにより測温体の抵抗値を確認することもできます。

確認作業を行った上で発信器の校正が必要と判断された場合には、校正を行う必要があります。

《温度の校正》

湿度の校正は、基本的に発信器より出力される電流信号を発信器側 または 受信側で調整する方法があります。
発信器側で調整を行う場合には、発信器の端子BOX内部の発信器上にある調整用トリマで行います。

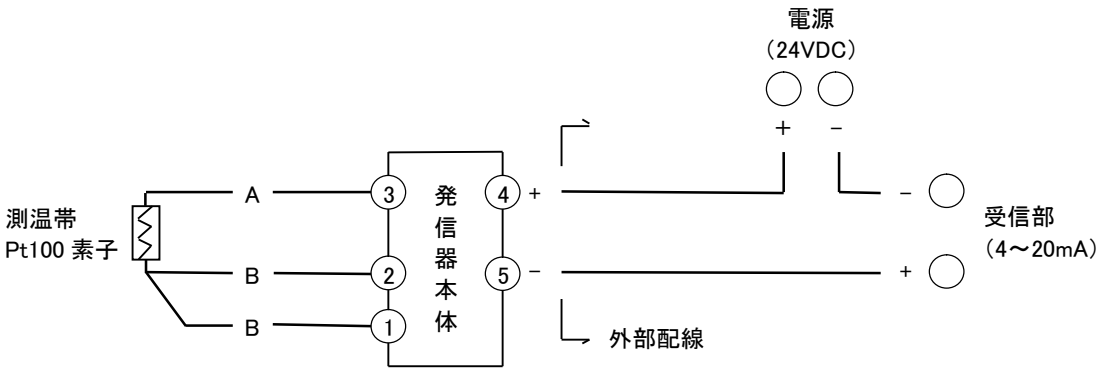
発信器本体

技術データ

検出素子	セラミック封入形白金測温抵抗体 （Pt100Ω JIS：A級）
温度レンジ	0～100℃（出力信号 FS）
検出精度	±0．5%（変換器精度 FS）
供給電源	15～28VDC（標準24VDC）
消費電力	0．3W～0．56W（24VDC → 0．48W）
出力信号	4～20mA DC（0～100℃ FS）
負荷抵抗	0～500Ω（24VDCにおいて）
配線接続	2線式 端子接続
使用温度範囲	
検出端部分	－10～110℃
発信器回路部分	0～50℃（結露しないこと）
材質	
検出端（シース部分）	SUS304
端子BOX	アルミダイキャスト

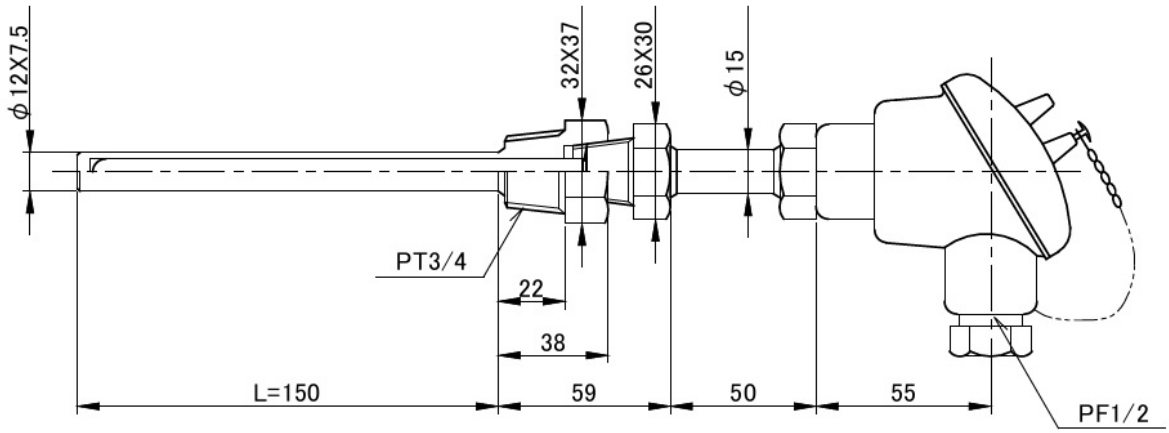
FS：フルスケール

発信器への配線



注意　：配線（ケーブル）は、基本的にシールド付ケーブルを使用してください。
　　シールドは、受信部側で設定してください。

外形寸法（単位mm）



Solution Partner Building Technologies SIEMENS

ARCHVAC

アーチバック株式会社

URL: www.archvac.co.jp/

本社　〒211-0012
神奈川県川崎市中原区中丸子 174 番地 平山ファインテクノ 2 階
TEL:044-455-9111（代）FAX:044-455-1050

札幌営業所　〒060-0005
札幌市中央区北 5 条西 6 丁目 1-23
北海道通信ビル 3 階
TEL:011-200-9588　FAX:011-200-9212

2025-04 版
記載内容はお断り無く変更する場合が有ります。